

地域の皆さんに愛され、信頼され、期待に応えられる病院を目指します。

文京だより

一宮市立市民病院広報誌

2023

8

Vol.11

口腔がんの早期発見に向けて



歯科口腔外科
部長

わたなべ ひろし
渡邊 裕之

- 日本口腔外科学会専門医・指導医
- がん治療認定医(歯科口腔外科)
- 日本口腔科学会認定医・指導医
- 愛知学院大学歯学部非常勤講師
- 歯科医師臨床研修指導医

- ・2000年 岡山大学歯学部付属病院 第2口腔外科 研修医
- ・2001年 赤穂中央病院 歯科口腔外科
- ・2003年 愛知学院大学歯学部 第2口腔外科
- ・2003年 岐阜県立多治見病院 麻酔科
- ・2004年 碧南市民病院 歯科口腔外科
- ・2005年 名古屋徳洲会総合病院 歯科口腔外科
- ・2006年 姫路赤十字病院 歯科口腔外科
- ・2012年 愛知学院大学歯学部顎口腔外科学講座 助教
- ・2017年 名古屋市立西部医療センター 歯科口腔外科
- ・2018年 名古屋市立西部医療センター 歯科口腔外科 副部長
- ・2023年 一宮市立市民病院 歯科口腔外科 部長

口の中は、赤色の粘膜でおおわれています。なぜ粘膜は赤いのでしょうか？粘膜はその下に毛細血管が豊富に走っておりその赤さが透けているのです。口の中の粘膜に白い部分があると要注意です。粘膜が白くなる要因は様々です。噛んでしまった、口内炎になってしまった、入れ歯が合わずにずっと痛い状況が続いていたなど粘膜に刺激が加わるとその周囲の粘膜上皮は刺激により厚くなります。そのため粘膜の下の毛細血管が見えなくなり白さが浮き出てきます。粘膜が白くなっているときに、注意が必要であるもっとも重要な理由は、がんが隠れていることがあるからなのです。

口腔がんは胃がんや肺がんほど頻度が多くはなく、全体のがんのうちの1～2%であり、希少がんとされています。ただ病気となってしまうと比較的進行が早く、放置しておくとも進行したがんとなってしまいます。進行したがんの治療はとても大変で、手術により見た目にも影響することもあり後遺症もある程度残ることとなります。早期のうちに見つけ、治療すると比較的予後が良くなります。



口腔がんの原因としては、義歯の不適や虫歯による歯の鋭縁などの放置が粘膜を刺激することが考えられます。たばこやお酒もほかのがんと同様その要因となります。ただ、それとは別にもともと口腔粘膜に病変が存在しがんになりやすい状況の方がいます。痛みを感じるような病変であれば医療機関を受診されることもありますが、痛みや違和感が出ない粘膜病変も存在するのです。粘膜病変の多くの粘膜上皮は全体もしくは一部分が厚くなっている部分が存在する場合が多く、白色病変といわれる状態となっています。世界保健機関が2017年に、がんとなりやすい粘膜異常を口腔潜在的悪性疾患として示しました。「紅板症」、「紅白板症」、「白板症」、「口腔粘膜下線維症」、「先天性角化異常症」、「無煙タバコ角化症」、「逆喫煙による口蓋角化症」、「慢性カンジタ症」、「扁平苔癬」（図1）、「円板状ループスエリテマトーデス」、「梅毒性舌炎」、「光線性角化症（口唇のみ）」の12疾患であり、粘膜に白色の部分が存在することが多く長期的に経過を観察していく必要があります。

そのため、痛みがなくても口腔粘膜に白い状態が見つかった場合は、口腔の診察を行う医師を受診することをお勧めします。口腔がんや粘膜異常は、簡単に診察することができる場所ですので、お近くの歯科や耳鼻咽喉科が専門となります。早期発見されたがんであれば、後遺症も少なく治療を

行うことができます。またがんでなく、口腔潜在的悪性疾患の一つと診断された場合も、基本的に経過観察を行いがんへの変化をいち早く見つけるきっかけにもなります。経過により高い確率でがんに変化しやすい状態と判断した場合は、がん化する前に積極的に切除を行い組織の検査で細かく調べます。また、口腔に粘膜異常が存在する方の場合、口腔とつながっている上部消化管の粘膜も同様の状態となっている場合がありますので、消化器内科による上部消化管検査をお勧めする場合があります。

手術の際には全身麻酔後に、口腔内のヨード染色による観察を行っています。（図2,3）これにより、目だけでは判断のつかなかった粘膜異常を観察することができます。粘膜異常は残しておくのがん化することがあるので、可能であれば、その部分も手術の際に切除をします。これにより、潜在的に隠れていた粘膜異常をあらかじめ切除することができ、がん再発の可能性を低くすることができます。

口腔内のがんはとにかく早期に発見することが重要です。口の中に白い箇所を見つけたら、お気軽に受診していただければと思います。



図1：口腔潜在性悪性疾患の一つ頬粘膜扁平苔癬



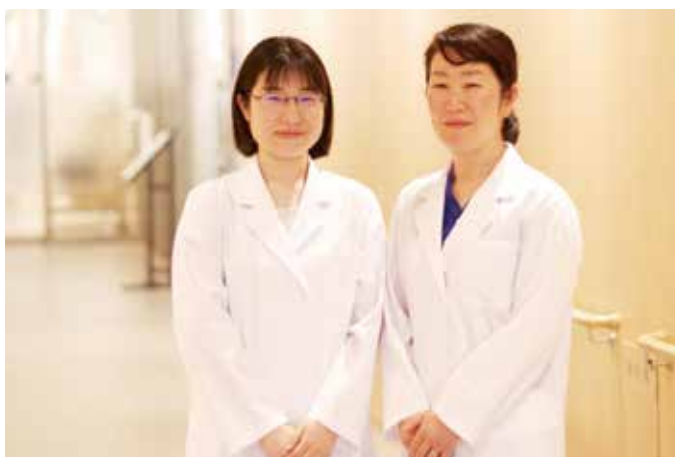
図2：舌の早期がん



図3：ヨード染色をしたところ。わかりづらい粘膜病変が浮き出ている

部署訪問 臨床心理室

臨床心理室では、身体疾患を持つ患者さんとそのご家族が抱えているこころの問題について、公認心理師・臨床心理士がまとまった時間を取って丁寧に話を伺っています。それによって、相談者の不安や緊張の軽減、気持ちの整理、心の負担を和らげることなどをお手伝いしています。ご自身の心の回復力の働きを支えることを通して、よりその人らしい生活が送れるよう支援することが私たちの主な業務です。また、相談者の了承を得た上で、その方の心理的状态を医療チームで情報共有しています。



■公認心理師・臨床心理士とは

医療におけるこころの問題に対応する専門資格として、大きく分けると公認心理師と臨床心理士という2つの資格があります。1988年に臨床心理士が公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の認定資格として資格化されました。その後2017年に公認心理師という新たな名称で初めて国家資格化されました。当室のスタッフは両資格を有しています。

■心理面接で扱われるこころの問題

人のこころの動きは千差万別ですが、身体疾患を持つ患者さん・ご家族によく見られるのは、以下のような状態です。

落ち込み

不安

ショック

あせり

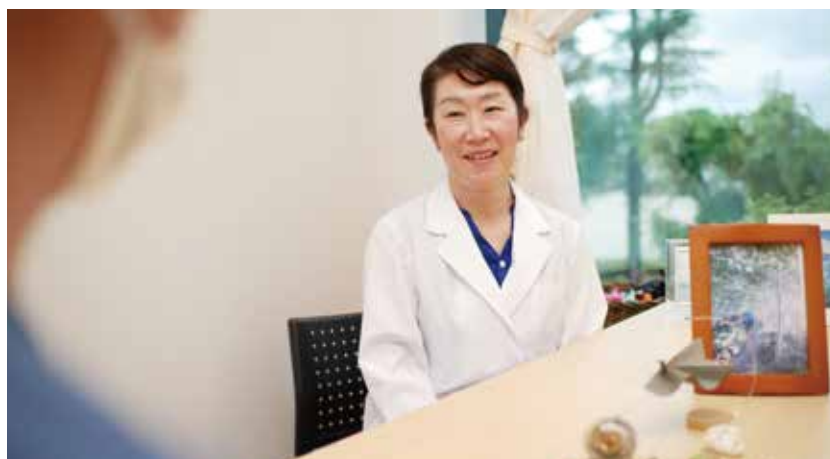
悩む

緊張

悲しみ

周囲にわかってもらえない

コミュニケーションがうまくいかない



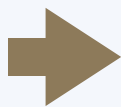
自分の心身に生じていることを聞き手に語ることで気持ちの整理が付き落ち着いていく場合もあれば、語ることよりもリラクゼーション(身体を用いた心身への手当)がより効果的な場合もあります。その方のその時の状態に合わせ対応しています。ご希望の方は担当医師や看護師にご相談ください。

医療費後払いクレジットサービス



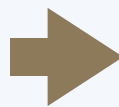
1.受付

専用受付機で
後払いを受付



2.診察

いつも通りの
診察



3.帰宅

会計ファイルを
提出しそのまま帰宅

まずは
登録



カンタン登録・即日利用可能

お手持ちのクレジットカードが利用可能

医療費が0円の方でもご利用ください

▶詳しくは、院内パンフレット・病院Webサイトでご案内しています。
待ち時間の短縮にぜひご利用ください。



認定看護師紹介

認知症看護・摂食嚥下障害看護

認知症看護認定看護師は、患者さんの思いに寄り添い、認知症があっても安心して治療を受けることができるように活動しています。身体疾患を抱え入院を余儀なくされる認知症患者さんは、急激な環境の変化や治療展開に戸惑い、時に混乱されることがあります。

原因となる心身のストレスを軽減し、患者さんご家族の思いに寄り添い“その人らしさ”を中心とした質の高い看護を提供していきます。

認知症看護 **中野 真一**



脳梗塞や脳出血、肺炎など様々な理由により、食べることがうまくできなくなることがあります。飲み込みがうまくできず、胃瘻造設を選択される方もいます。しかし、「口から食べること」は、五感を刺激し脳を活性化するという医学的なメリットがあります。食べたい思いに寄り添い、食べる姿勢や嚥下訓練など、口から食べることが困難な方へ支援を行います。患者さんご家族と共に、経口摂取に向けた看護を実践していきたいと思っております。

摂食嚥下障害看護 **岩田 由花**

診療受付時間 午前8時～午前11時15分(全科)

診療開始時間 午前8時40分

休診日 土曜・日曜・祝日・年末年始(12月29日～1月3日) ※ただし、急患の方は救命救急センターで臨時診療

発行者/一宮市立市民病院 院長:志水清和 一宮文京2丁目2番22号 TEL:0586-71-1911 <https://municipal-hospital.ichinomiya.aichi.jp>



敷地内禁煙
NO SMOKING